

利用環境WG（第三回）における指摘事項

議題	意見	対応
<p>「ユビキタスネット社会の課題と取組状況」の整理について</p>	<p>課題の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> バージョンアップのたびに、国民が新しいものへと対応しなければならなくなる。これは、ユビキタスネット社会の課題と言えるのではないか。 ユーザインターフェースの改良の必要性及び高齢者等のための代行業という新たなサービスの登場という視点 <p>整理方法について</p> <p>【対応の充実度と社会的影響でマッピングする方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的影響と対応の充実度の2軸で整理は明確で分かりやすい。 社会的影響度、対応の充実度に関しては様々な尺度がある。また対応がなされることにより、日々刻々と変化する。 その他の軸や次元もある。3次元は無理なので、色分けしてはどうか。 <p>【対応の充実度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「法制度の有無」の部分は、性質の違うものもあり、全てについて単純に×をつけるようなものではない。 表の網掛け部分（比較的対応されている部分）について、その基準に関して疑問。例えば、「環境」や「携帯電話のマナー」ののところなど、制度はあるとしても実質的に対応が十分とはとても思えない。 <p>【社会的影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的影響には、「それ自体の影響力」と「一つ問題が起こるとその波及効果が大きい」という2種類が存在。 例えば「個人情報の流出」などは、対応が充実していないという意味で一番左にあっても良いような印象がある。そもそも、全体的にもっと左に寄るのではないか。 IT弱者、子供、お年寄りから見ると影響の大きさが違って来る。特に影響が大きそうな項目に関しては、そのような弱者にとっての影響を個別に考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 100課題の中に追加 社会的影響、対応の充実度の要素を、それぞれ2つに細分化して整理
<p>ユビキタスネット社会における憲章・骨子素案について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 憲章を作成していくことに関しては、賛成。いくつかの言語で提示するべきでは。インターネットガバナンスの在り方に一石を投じるという意義もある。 前文では、「何のためのユビキタスネット社会か」という視点が必要。 前文冒頭に、ユビキタス社会像を述べるべき。例えば「人間が人間らしく・・・」や「人間が、仲間、社会、地球との調和のもとに、精神的・物質的にも安定した生活が出来る社会」など。 システムとしての脆弱性の問題（例：正月に携帯電話による通話が殺到しパンクする）を、「いつでもどこでもネットワークにアクセスする」の部分などに盛り込むべきではないか。 大規模災害に対応する能力を確保するという視点が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 「憲章」の骨子素案に反映

利用環境WG(第3回)議事要旨(案)

1 日 時

平成16年5月14日(金) 16時00分から18時00分

2 場 所

総務省第2会議室(地下一階)

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

堀部政男(座長)、井崎直次、大谷和子、佐野真理子、田島正広、東倉洋一、三石多門、
守安隆、脇浜紀子

(2) 総務省

鈴木統括官、桜井審議官、吉崎総合政策課長、今川総合政策課課長補佐、高地総合政
策課課長補佐

4 議 題

(1) 構成員より発表

ニフティ(株)取締役サービス事業部長

井崎 直次

(株)日本総合研究所法務部長

大谷 和子

よりヒアリングを行った。

(2) 事務局より説明

(1)、(2)に対して、各構成員と事務局との間で以下のような議論が行なわれた。

【井崎構成員の発表について】

保険はどのような仕組みになっているのか。

訴訟等損害賠償が行なわれた時に、対応するもの。

保険の話、昔からあったが、70年代より情報保険はペイしないとされている。

ベンチマーキング、プロバイダーを評価したもの、格付けみたいなものはあるのか？

まだない。昨年から今年になってベンチマークなどが行われだし、基準が整備された。
した。

プロバイダーの安全、安心マークというのがある。堀部先生が委員長。

SS マーク。これは厳格なもの。数値化して、一つ一つチェックしている。

それは推奨例ということで、全体を含めた格付けみたいなものというのではないということか。

ない。プロバイダーも取得している数は多くない。

テレサ協の HP に取得しているプロバイダーに関しては情報があるものの、利用者の方への周知徹底がなされておらず、活用しにくい。また、利用者へのセキュリティなどへの意識が低い。

有料セキュリティサービスの加入率はどうなっているか。

ウイルス対策で 20%、ブロードバンド一括だと 5% の水準であり、利用者の意識低い。

新しく加入しようとする人にとっては、料金が安いのが重要と考えている。セキュリティに関しては、どうでもいい。しかし、加入すると、セキュリティなどの重要性に気が付く。

加入して痛みを感じると入るとのことか。

安全安心には二つある。一つはネットワーク自身の安全。もう一つは使って安心であること。

【大谷委員発表について】

すでに実用化されているものもあるのか。

プラダの話ですが、これは成功例として聞いている。売り上げがあがった。

確かにその通り。ただ、成功しただけに、消費者は心配している。消費者に対してしっかり情報が提供されるのか、など。

ウォルマートのような一旦諦めて導入するような事例もある。この点に関しては、アメリカでは大問題となっている。

【ユビキタスネット社会の課題と取組み状況について】

課題7のリテラシーについて。例えば、OSなどは、普及しているものは良いが、ある一定のバージョンはサポートが切れる。新しいものに関しては、セキュリティなどが充実しているが、古いものに関しては、面倒を見切れなく、これは、ある意味合理的である。しかし、国民は対応していけるのか。利用者は、新しいものに対応せざるをえなく、この辺りは課題と言えるのではないか。

新たな課題という気がする。

制度的解決あるわけではないので難しいが。

この表の形式であるが、法制度有無のところについて、マークがつかないものがある。この表は、そもそも毛色が違うようなものもある。例えば、「言語の壁」などについて、法制度でどうこうするような問題なのか？ ×を全部に関してつけなければいけないというものではない。

が良くて、×が悪いという価値判断を含んだものではない。ファクトとして記載している。

表の網掛けの部分の判断の基準に関して疑問。例えば「環境」のところ。この部分などは、全部、白でも良いくらいである。他にも、「携帯電話マナー」とか、とても対応されているとは思えない。

事務局としては、行政としてできることと言う観点から見ているので、どうしても制度、法と言うものに目がいく。確かに制度はあっても実効性のないものなどもあると思う。

私も同感。実行が伴うか、十分かというのはもう一つ別な問題。

これはこうじゃないかというご指摘をいただきたい。運転中の電話使用の件は？

ハンズフリーにより運転中話すことが可能となっている。

【「ユビキタスネット社会の課題と取組状況」の整理について】

ここの社会的な影響とは、どのような意味でのものなのか。一つ問題が起こると波及効果が大きいのということなのか、それとも、それ自体がそもそも大きいのか？

特段、区別をしていない。

この整理は、明確になり良いと思う。分かり安い。例えば、「個人情報の流出」などは、保護法ができて、真ん中くらいまで来た。施行になったら、さらに右に行くのではないか。ただ、保護法で流出までカバーできるかは問題であるが。

「個人情報の流出」の項目は、左に引っ付いていても（対応がされていないというジャンル）良い。そもそも、全体的に左についていても良いと思う。

制度的にあっても実効性がないという問題もある。

社会的に影響が大きくて、かつ、対応策が充実されていないのが重要というのは分かる。ただ、社会的影響度、充実度も様々な尺度があり、難しい。それから、位置の問題も難しい問題である。

また、対応が日々刻々と変わってくるので、その反映と言うのも難しい。

悪い方に移動しているものから芽をつぶしていくというのも一つの視点。

影響力の問題がある。誰でもどこでも、ということであるが、標準的な人物像が描かれているのだと思う。しかし、例えば、IT弱者、子供、お年寄り、からみると影響の大きさが違って来る。そのような項目については、個別に考えるべきではないか。

そのようなところが話題になりそうなものについては、別の整理の仕方が必要なのは。

特に影響のありそうな項目だけピックアップするなど。

その考えには賛成。社会的影響の大きさには、量と質がある。

コミュニティ、カテゴリーごとに、価値判断が違う。

3次元表示は大変だから、別の色でマーキングするとかの方法があるのではないかな。

ヒントにして、事務局で工夫してみてください。

【ユビキタスネット社会における憲章・骨子素案について】

全体となった時の危機という視点が必要ではないか。安心安全のところにはいるのかもしれない。この影響、波及効果が大きい、という話をどこかに入れるべきではないか。例えば、携帯電話が正月に集中しパンクすることなど、システム的な集中による脆弱性の課題などどこかに入れることはできないか。

「いつでもどこでもネットワークにアクセスする」に入るのかもしれない。

ユビキタス部分をインフラという視点からも整備すべき。

サイバー社会とユビキタスネット社会の関係は？

ユビキタスネット社会は、サイバー社会と現実社会とで成り立っていると解釈している。

さきほどの、インフラの話は、最後に入ってくるのでは？

サイバー社会の特徴として、隣の人が何をやっているか分からないということがある。

その通り。現実社会なら、道が込んでいる、など目に見える。しかし、サイバーの世界では、地球上の全員が、ひとところに集まってしまうことが可能で、さらに、それをみんな知らないということが起りうる。これが問題。

前文で、何のためのユビキタスネット社会なのかという視点が必要。

「行政や社会の責務」とかの記述があるが、これは何か？

行政以外のものを社会と呼んでいるのか？

ここでの社会は、個人を想定したものではない。安全安心なユビキタスネット社会に向けて行政のみが頑張るというのではなく、会社、地域社会、NPO、NGOなどの協力が必要。そのようなものの責務ということ。

引き続き、検討していくということで。

【今後の検討スケジュールについて】

憲章を作成していくことに関して賛成。いくつかの言語でやりたい。

意義として、インターネットガバナンスの在り方に一石を投じることになる。

今までは民間主導という流れ。それとは逆に行政の役割重視する中国がある。

人間が人間らしくあるために、ガバナンスは如何にあるべきか？の議論、つながるのではないか。是非、まとめていきたい。